

A photograph of several children at an outdoor event. In the foreground, a young girl with dark hair is looking to her left. She is wearing a black sleeveless top with a large graphic of a smiley face filled with daisies. To her left, a boy in a black t-shirt with a red star and the letters "ZEN" is also looking left. In the background, another girl in a bright green shirt is visible. The scene is brightly lit, suggesting an outdoor daytime setting.

CSR report 2015

エイベックスが大切にしていること

めまぐるしく変化する社会の中で、
私たちは総合エンタテインメント企業として何ができるのだろうかと、
常に考え続けてきました。

寄付やボランティアといった活動は、
エイベックス・グループとしても日常的に行っています。
でも、それは企業として当たり前のことだと思っています。

私たちの本業は、人々に感動を与えること。
共感を起し、希望を与え、生きる喜び、そして未来への夢を与えること。
誤解を恐れずに言えば、事業そのものがCSRなのかもしれません。

そのためには、エンタテインメントを創り出す人々の環境を整えること。
つまり、社員一人ひとりがいきいきと働けるエイベックスであり続けること。
それもCSRだといえるはずです。

私たちが持つすべてのノウハウを生かし、人の感情を揺さぶる、
エイベックスのエンタテインメントにしかできないCSRを追求していきます。

いつの時代も、一人ひとりに寄り添う、
エンタテインメントを。



エイベックスによる復興支援活動

被災地の小・中学生に元気を届けています。



南相馬市へのプロダンサー派遣

エイベックスでは、「エンタテインメントを通じて感動や夢を届けたい」という想いのもと、東日本大震災の被災地へ「エイベックスならではの」支援活動を続けています。これまで「a-nation東京公演」の模様を生中継し、岩手県、宮城県、福島県のイトーヨーカドー6店舗で、無料パブリックビューイングを実施したほか、岩手県、宮城県、福島県、茨城県のコミュニティFM局35局に500タイトルのCDを寄贈しました。

2014年1月からは南相馬市の小・中学校21校に、毎月4~5タイトルの音楽CDを寄贈するなど、さまざまな支援活動を行っています。また、2014年6月からはプロダンサーの派遣を開始。ダンスを通じての運動不足解消はもちろん、エンタテインメントへの理解を深めてもらい、普段の生活にも充実感を持ってもらうことを目標に取り組んでいます。この活動は2015年度以降も継続し、より多くの小・中学生に元気を届けていきます。

ダンサー派遣実績(2014年度)

6月	原町第一小学校、原町第二小学校
8月	大甕小学校、原町第一中学校
9月	石神第二小学校、原町第三中学校
10月	原町第三小学校、原町第一中学校
11月	太田小学校、原町第二中学校
12月	石神第一小学校、八沢小学校
1月	石神第一小学校、石神第二小学校
2月	高平小学校
計12校	

feature topics

体を動かすことの大切さを再認識

南相馬市教育委員会事務局 鈴木 和一郎様



校庭や公園の除染作業は進んでいますが、スクールバスによる登下校などで「歩く機会」が減り、子どもたちの運動不足が問題となっています。特に、南相馬市の児童・生徒は肥満傾向にある子どもの割合が全国平均を上回っているだけでなく、避難生活によって友達と遊ぶことができず、ストレスを抱えている子どもたちが増えていました。今回、プロダンサーによるダンスレッスンを受け、生徒たちはいい刺激を受けたように見えました。各校1~2回のレッスンで身体面での変化は少ないと思いますが、ストレス発散とともに体を動かすことの楽しさを実感し、明るく元気になったと先生や親御さんからも大変好評でした。また、教えてもらったダンスを自分たちで練習して文化祭で発表するなど、学校生活にも活かされており、今後もエイベックスと協力し、活動を続けていきたいと思っています。

被災地の中学校で、ダンスを教えています。

avex Dance Master OFFICIAL INSTRUCTOR, KAZUMIN [カズミン]

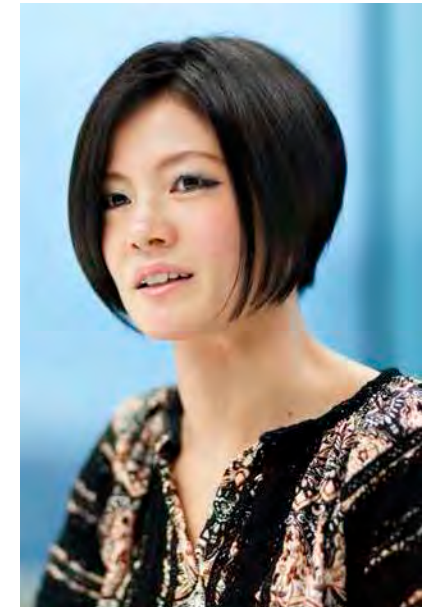
ダンスで子どもたちを笑顔にしたい

震災直後、被災地で衣食住の支援が求められるなか、一人のダンサーにできることは何もないと無力さを感じていました。しかし震災から3年が経過し、徐々に復興が進む今こそ、被災地の人たちをダンスで元気づけたいと思うようになりました。そんなとき、エイベックスのダンサーとして南相馬市の中学校への講師募集があり、「参加したい!」と手をあげたことを覚えています。

当日は、子どもたちでも覚えやすい曲を選んでダンスレッスンを行いました。「東京からダンスの先生が来た!」と緊張している生徒も多く、レッスンが始まってすぐは動かない子もいましたが、触れ合いながら一緒に体を動かしていくうちに、生徒だけでなく先生も参加し、体育館に大きな一体感が生まれました。しかもそれは1回の授業で終わりではなく、8月のレッスンの後も自分たちで練習を続けていたようで、再度11月に訪問したときには、練習を続け上達した姿を見て、こちらが感動してしまいました。

希望を持てばできることを伝えたい

ダンスレッスンは体を鍛えるだけでなく、挨拶や礼儀なども教えられるので、心の教育にもなります。今回の活動を通じ、ダンスだけに限らず「これはできない」「これには興味がない」とすぐにあきらめてしまうのではなく、視野を広げることの大切さも生徒たちに伝わっていると嬉しいです。運動不足は子どもたちだけでなく、お年寄りも深刻な問題となっているようなので、椅子に座ったままできるストレッチなど、体を動かすことの大切さ、面白さをお年寄りにも伝えていきたいと思っています。



[派遣先]
南相馬市立原町第一中学校
[レッスン実施日]
2014年8月28日(3年生) / 2014年10月28日(2年生)

エイベックスによる障がい者スポーツ支援活動

チャレンジド・アスリートをサポートしています。



所属選手・ チーム*	田中 佳子	高田 裕士	安 直樹	佐藤 圭一	上村 知佳	上地 結衣
	木山 由加	正木 健人	三枝 浩基	高桑 早生	峰村パラスイムスクワッド(池 愛里)	

※2015年5月現在

アスリートを積極的に雇用

エイベックスでは2008年より、障がいを持ちながらもトップアスリートとして活躍している選手を積極的に雇用しています。スポーツをエンタテインメントとしてとらえ「障がい者」という位置づけに違和感を感じ、「チャレンジド・アスリート」として、2013年に「avex challenged athletes」というチームを発足させました。現在では11名+1チーム、全9競技の活動をサポートしています。特に2014年のソチ冬季パラリンピックでは、単一企業としては最多となる3名の社員が出場し、好成績を残しました。今後も、エイベックスの「move the world」というミッションのもと、エンタテインメントを届ける企業として、トップアスリートをサポートし、たくさんの方に夢と感動をお届けします。

2014年度の活動と選手の活躍

- ★上地結衣(車いすテニス) 世界ランキング1位/年間グランドスラム達成
- ★アジアパラ競技大会(韓国・仁川) 単一企業最多 5名出場
- ★チャレンジド・アスリート・プロジェクト(CAP) 業務提携
- ★国際親善女子車椅子バスケットボール大阪大会「大阪カップ」特別協賛
- ★(公財)日本障がい者スポーツ協会 オフィシャルサポーター



「大阪カップ」



スポーツを通じてエンタテインメントを伝えたい。

バイアスロン/クロスカントリー/トライアスロン 佐藤 圭一

365日練習に集中できる環境

以前は、アルバイトをしながら競技活動をしていましたが、アルバイトの収入では金的にも厳しく、練習にも集中できませんでした。そんなとき、エイベックスの障がい者アスリートに対する取り組みを知り、またご縁があって「ぜひ働きたい」と、2010年にエイベックスの社員になりました。障がい者のスポーツ活動を支援する企業はいくつかありましたが、午前中はデスクワーク、練習は午後からというところが多く、練習に没頭できる環境ではありませんでしたが、エイベックスでは「競技活動=仕事」なので、1年間を通して競技に専念できる環境が整っています。

たくさんの人に夢と感動を

皆さんの温かい応援もあり、2014年のソチ冬季パラリンピックではクロスカントリー、バイアスロンの2種目に出場することができました。会社や社会に貢献するという意味では、4年に1度のパラリンピックに出場してメダルを獲ることが重要ですが、世界を目指している姿を多くの人に見てもらい、スポーツを通じてエンタテインメントを伝えるというのも、エイベックスの社員としての仕事だと思っています。最近ではトライアスロンもはじめたので、冬季・夏季の競技を両立しなければならないのですが、逆にいうと両方に出場できるチャンスでもあり、今は2016年にリオデジャネイロで開催されるパラリンピックの出場を目指してトライアスロンの練習に専念しています。一人のアスリートとして、また、エイベックスの社員として、これからもたくさんの人に夢と感動を伝えていきたいと思っています。

福祉的な大会に、魅力的な「ショー」を

大阪市長居障がい者スポーツセンター 三上 真二様

日本初の障がい者スポーツセンターがつくられるなど、大阪府は古くから障がい者スポーツに力を入れてきました。なかでも車椅子バスケットボールは行政が主体となり大会を運営してきましたが、予算削減のあおりを受けて大会存続が厳しくなり、協力してくれる民間企業を探していました。そんなとき、エイベックスに所属している上村知佳選手とのつながりもあり一緒に何かできないかご提案したところ、我々の活動にご理解いただき、2014年度より協賛していただいています。大会運営については大きな変更はありませんが、決勝戦では選手の入場時にスモークを焚く演出や、ショータイムでもエンタテインメントの要素が多く取り入れられ、選手や来場者に楽しんでいただける要素が増えました。資金的なサポートだけでなく、こういったノウハウをうまく取り入れながら、今後も集客力・発信力のある大会を目指したいと考えています。



「大阪カップ」



アーティストへの取り組み

デビュー前のアーティスト育成について

エイベックスでは、デビュー前のアーティスト・タレント予備軍に対し、無料でレッスンやライブ、音楽制作支援などを行い、活動支援契約者としてデビューまでのエンタメ活動全般をバックアップしています。これを未来のエンタメ業界における優秀人材への投資とも考えて継続的に実施。現在は全世界に200名強が在籍し、2015年度には60名以上がデビューまたは専属契約を予定しています。半年に一回、全国5都市を育成担当者が回って、活動支援契約者とその親御さん同席のもと、スキルチェックと面談を行っています。そこではスキルアップ進度の共有だけでなく、食生活やメンタル面の指導、未成年者については進路相談などもあわせて行います。アーティスト、ご家族、育成担当者、3者の信頼関係こそが最適な育成環境を構築すると考え、基本学力も保持しながらの“文芸両道”を目指しています。これは、活動支援契約者の人生の一部を背負っているという想いを強く持っているからです。

アーティストの発掘からデビューまで

オーディション、スカウト、アカデミー生などから人材を選定

アーティスト活動支援契約を締結

育成期間 平均2~3年

社内外の新人デビュープロジェクト
担当者へプレゼンテーション

専属マネジメント契約、または専属実演家契約が決定

デビュー

アーティストの前に人間としての教育

エンタテインメント教育は机上の学習とは異なり、人と人とのコミュニケーションのなかで進められていきます。仲間やライバル、クライアントや担当スタッフなど、たとえ若いアーティストでも大人としての対応を求められる場面も多く、“自分は誰に何を求められているのか”“自分の長所は何か”、などを強く意識しながら成長していきます。また、“人としての成長なくして人に感動を与えるエンタテイナーになることはできない”という考えから、レッスンよりも「教育」という観点を重視し、礼儀やあいさつ、感謝する気持ちなどの心得を提示。これらの教育を行うことにより、レッスンの場だけでなく普段の生活においても成長がみられたという話も、多くの親御さんにいただいています。

活動契約支援者心得

- 礼儀とあいさつを大切にすること
- 時間と約束を厳守すること
- 感謝の気持ちを持つこと
- レッスンに対する真面目な姿勢を持つこと
- 相談すること



レッスン風景

社会とお客さまへの取り組み

学校給食プログラムへの支援

「子どもを空腹のまま、学校に通わせてはならない」とのWFP(World Food Programme)の趣旨に賛同し、継続的に支援しています。具体的には、本社に設置してある自動

販売機で飲料を購入することで、1本につき10円がWFPに寄付されます。この取り組みは2010年より継続しており、2015年3月末時点で総額は7,088,030円となりました。

アジア国際子ども映画祭

「アジアの子どもたちに夢やエンタテインメントを届けたい」という趣旨に賛同し、これまで4年間に渡り、アーティストの出演協力や協賛、委員会への参加を行いました。

アジア国際子ども映画祭とは・・・

「子どもたちの心の中に内視鏡を入れよう」をコンセプトに子どもたちが自ら制作した3分間の映像作品をコンテストする映画祭です。作品から見える子どもたちの想いを教育に活かすことも目的のひとつです。海外約15カ国・地域の子どもが来日し、交流も行います。



お客さまの声を蓄積する仕組み

お客さま対応の基本は、「エイベックスは問い合わせをすれば必ず返ってくる」と感じていただくことです。そのため、折り返しご連絡をするにしても、すぐに回答できるにしても、まず“ワンアクションを素早く行う”ことをモットーにお客さまに対応しています。エイベックスには毎日、電話やメールを通してたくさんの声が寄せられます。その数は、電話で月に約7千件、メールで約2万件にも及びます。これらのさまざまなご意見やご要望は、社内システムに毎朝アップロードし、全社員が閲覧できるようにしています。こうすることで、どんな施策に対してお客さまからどのような声が寄せられたかを共有することができ、同種の施策に対して同様の問題が起きることを未然に防いで

います。またエイベックスは、運営を担うアーティストのファンクラブごとに個別電話回線を設けています。これは「問い合わせをしたいが、なかなか電話がつかない」というお客さまのご不満をできるだけ減らすことを目的としており、専用回線だけで20回線以上を設置しています。

お客さまから寄せられる声に対する弊社の対応



次世代育成への取り組み

中高生の職場訪問受け入れ

当社グループでは、“職業としてのエンタテインメント”の魅力を伝えるべく、中高生の職場訪問を積極的に受け入れ、当社グループの歴史、音楽CDができるまでの

流れや仕事内容、著作権法などについて、ビデオや資料を交えながら講義しています。2014年度は192校2,201名が全国から訪れました。

参加学生の声

映像や音楽だけでなく、コンサートや配信なども行っていることを知った

「世界に日本のアーティストを売り出すための経営」について理解が深まった

いままで当たり前のよう聞いていた音楽の見方が変わった

「人を楽しませる前に自分が楽しむ」という言葉が印象的だった

無料ダンス選手権の開催

2012年度より中学校でダンスが必修科目となったこととともない、次世代を担う子どもたちがダンスの楽しさを少しでも感じられるよう、全国の中学校・高等学校のダンス部を対象とした選手権「DANCE CLUB CHAMPIONSHIP」を開催しました。本コンテストはエントリー費・来場費ともに無料で、ダンススキルを競い合うだけでなく、参加校が自分

たちで決めた「漢字二文字」を表わすための、プログラム構成や表現力も審査の大きなポイントとしました。8月には、予選の映像審査を勝ち抜いた30校が全国から集まり、a-nation islandのステージで決勝大会を開催。ダンスへの想いをぶつけました。

(応募人数：中学校=69名、高等学校=648名)

2014年度に実施したダンサー派遣

地域	主催	対象	回数
名古屋	名古屋市青少年文化センター(アートピア)	小学校4年生~中学校3年生	1
名古屋	名古屋市青少年文化センター(アートピア)	教職員や教職員を目指している大学生	1
埼玉	埼玉県女子体育連盟西部地区	埼玉県内高等学校・特別支援学校の体育教員	1
埼玉	埼玉県女子体育連盟南部地区	埼玉県内高等学校・特別支援学校の体育教員	1
福岡	福岡市教育委員会	柏原中学校生徒	10
福岡	福岡市教育委員会	城南中学校生徒	6
福岡	福岡市教育委員会	住吉中学校生徒	6
福岡	福岡市教育委員会	城西中学校生徒	6

著作権への取り組み

「他人のものを盗むな」を基本に

当社グループでは、コンプライアンスポリシー「自社の知的財産権を保護し、他者の知的財産権を尊重する」にのっとり、各種著作権への対応を行っています。映像・音楽商品の海賊版については、刑事・民事の両面から対応し、インターネットへの違法アップロードに対しては、法務部が

日々ネット上でチェックを行うとともに、社員や善良なファンの方からの報告を受けて、プロバイダに削除を依頼しています。それでも違法状態が続くようであれば、個人情報の開示請求を経て、訴訟に踏み切るケースもあります。

著作権への啓蒙活動

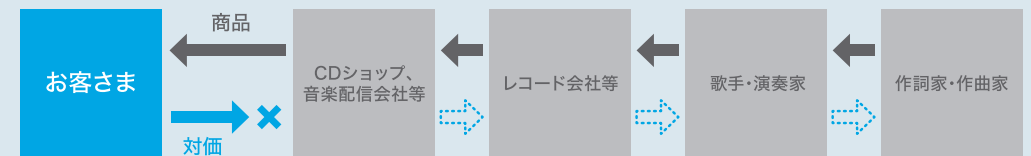
当社グループの著作権侵害対応だけでなく、当社グループが他者の権利を侵害していないかについても、できる限りのチェックを行っています。これらの取り組みの背景には「音楽創造のサイクルを絶やさない」という、日本レコード協会を中心とした音楽業界全体に共通した考え方があります。商品が適正に販売できない

状況にあれば、作詞・作曲家、アーティスト、レコード会社など、音楽にかかわる人々に正当な対価が支払われなくなってしまう、その結果、新しい音楽を生み出すことが難しくなってしまいます。そのため当社グループでも、著作権啓蒙ポスターの配布や、職場訪問で訪れた学生に著作権の重要性を伝える取り組みなどを行っています。



正規の音楽・映像配信サイトで表示される「エルマーク」

著作権侵害行為で、新しい音楽の創造が不可能に(参考:一般社団法人日本レコード協会)



対価が支払われないことにより、新たな音楽を作り、売るサイクルが成り立たなくなる

環境への取り組み

CDパッケージでの環境活動

「commons for GREEN」の合言葉のもと、名実ともにグリーンレーベルとして歩みはじめたcommons^{※1}では、2008年より同レーベルでリリースしたすべてのパッケージ商品をカーボンオフセット^{※2}CDとしてリリースしています。なお、commonsオフィス内の照明はすべてグリーン電力を使用し、環境への配慮を行っています。

※1 坂本龍一をはじめとするアーティストたちが、音楽の新たな可能性を模索すべく、当社グループとともに設立した新プロジェクト。エコロジカルな視点を持ち、社会・文化貢献を目指す新しい音楽コミュニティとして、アーティスト/クリエイター、音楽産業、ユーザー/リスナーのよりよい関係を作るための「共有地 (commons)」となることを目的に活動

※2 日常生活において排出したCO₂をオフセット (相殺) するために、森づくりや自然エネルギーを導入すること



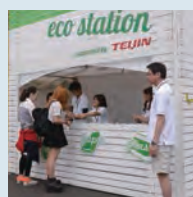
1

イベントでのエコ活動

当社グループが毎年夏に開催している野外ライブイベント「a-nation」では、エコステーション活動を実施しています。これはコミュニティエリア内に設置されたエコステーションでゴミの回収・分別を行い、多くのゴミを持ってきていただいた来場者にボンフィン (ミサンガ) をお渡しするというものです。国立代々木競技場園地で行われた「a-nation

island」では4カ所、「a-nation stadium fes.」を開催した味の素スタジアムでは6カ所のエコステーションを設置。回収されたゴミは、可燃・不燃・ペットボトルとそのキャップ・ビン・カンに分別し、ペットボトルは帝人のリサイクル循環システムを活用し、次年度のエコボランティアユニフォームやボンフィンとして再生させています。

リサイクルの流れ



エコステーションにてお客さまからゴミを回収



スタッフが、ゴミをお持ちいただいた方にボンフィンを配布



回収したゴミは分別され、ペットボトルは帝人松山工場へ



次年度のボンフィン・エコボランティアユニフォームに生まれかわる

2

働きやすい職場づくり (1)

ワークライフバランスの推進

当社グループでは、働く女性が仕事と育児を両立しながら自己実現できる場を提供すべく、積極的な女性支援策を講じています。2013年度は、厚生労働大臣認可の次世代認定マーク「くるみん[※]」マークも取得しました。

※「くるみん」マークは子育てをサポートしている企業であることを示すものです



「くるみん」マーク

ワークライフバランス推進状況

2014年度の産休取得者は26名、育児休業から復帰し育児と仕事を両立している女性社員は累計55名となり、合わせると女性社員全体の約1割となっています。近年での復職率はほぼ100%に近く、仕事と育児を両立する女性社員は年々増えています。そのような

状況をふまえ、ライフイベントと仕事を両立する社員が継続してキャリア構築できることを目的に、ワーキングマザー向けの研修とその管理職に対して研修をそれぞれ実施。こちらには計21名が参加しました。

1

社員の健康促進

社員の健康促進、生活習慣病予防対策として、「朝ヨガレッスン」や「血液サラサラ検査」を実施しています。朝ヨガは、「健康のために運動は必要とはわかっていても、毎日の業務に追われてなかなか体を動かせない」という社員の声をうけ、始業前の時間を有効活用して開催。外部インストラクターの方をお招きして、2014年度は8回開催し計51名が参加しました。また2回実施した「血液サラサラ検査」には計60名が参加。指先から採取した血液を外部の保健師とともに自分の目で確認、食事や生活習慣についての簡単なアドバイスもいただきました。



朝ヨガレッスンの様子

2

健康保険組合の設置

当社は2012年6月1日に、音楽、映像コンテンツなどを提供するエンタテインメント業界としては初めて、厚生労働大臣の認可を受け「エイベックス・グループ健康保険組合」を設立しました。これにより保険料や健康診断実施項目

についても法的内容をさらに充実させた形で実施することができ、若い社員が多い当社グループの実態に合った健康維持・増進の取り組みが可能となっています。(2014年度健康診断受診率:95%)

3

働きやすい職場づくり(2)

仕事と介護の両立セミナー開催

当社グループでは、さまざまな研修を行っており、2014年度は「仕事と介護の両立セミナー」を開催しました。実際に介護の現場を知る講師をお招きし、いざという時に慌てないための介護の基本をはじめ、介護保険制度の仕組みや仕事と介護の両立について、事例を交えながら解説。定員を上回るほどの参加があり、反響の高いセミナーでした。セミナー映像は、社内イントラに掲載し、社員がいつでも閲覧できる

環境を整えています。今後も、働きやすい職場づくりを目指し、さまざまな研修を予定しています。



セミナーの様子

4

充実した研修制度

スキルアップを図るために、さまざまな研修を開催しています。

2014年度実施研修一覧

種類	対象者	名称・内容
階層別研修	管理職	セクハラ・パワハラ防止研修
	管理職	アンガーマネジメント研修
	新任管理職	新任課長職(マネジメント・リーダーシップ基礎)研修
知識・スキル系	新卒入社4年目	新卒4年目研修
	新卒内定者/新入社員	内定者・新入社員研修
	主に入社2年目以上かつ34歳以下の一般職	ロジカル・シンキング研修
その他	全社員	Excel/PowerPoint/Wordスキルアップ研修
	20代後半~30代前半	ライフポートフォリオ研修(女性/男性)
	新卒育成担当者	トレーナー研修(新人配属後約1年間をトレーナー制度期間とし継続的に研修・交流会)
	ワーキングマザー	ワーキングマザー向け育児両立セルフマネジメント研修
	ワーキングマザーの上司	ワーキングマザー上司向け研修
	中途入社者	中途入社者オリエンテーション(eラーニング)
	中途入社者	中途入社者ランチ交流会

5

avex group家族感謝会を実施

2015年2月に今回で23回目となる「家族感謝会」を実施。このイベントは、日ごろからエイベックスを支えているグループ社員のご家族に感謝の意を込めて創業当初から行っております。会社の規模拡大と共に内容を変化させ今回は役職者とそのご家族を対象に計350名以上が参加。

当日は、役員からの挨拶、お子様向けのステージ、お食事をしながらの歓談など、大人から子どもまで楽しめる内容で日ごろの業務とはまた違った社員同士の交流も見られる一日となりました。

6

エイベックスが守るべきルールとして

エイベックスでは、以下のコンプライアンスポリシーを、すべての行動・判断の基準に据え、事業活動を行っています。

インチキするな。

1. 公正、透明、自由な企業間競争を行う。
2. 会社の正当な利益に反して、自己や第三者の利益を図るような行為を行わない。
3. 営業活動において、不正な手段は用いない。

弱いものイジメするな。

1. 人権を尊重し、差別につながる行為を行わない。
2. 取引先に対しては、良識と誠実さをもって接し、公平かつ公正に扱う。

人の金で遊ぶな。

取引先等と健全な商慣習や社会的常識を逸脱した交際をしない。

ウソつくな。

1. 情報を的確に開示する。
2. 適正な宣伝・広告をする。

勘違いするな。

法令を遵守し、社会規範を尊重する。

無駄づかいするな。

環境問題の重要性を認識し、会社の資産は有効に活用する。

他人(ひと)のものを盗むな。

自社の知的財産権を保護し、他者の知的財産権を尊重する。

「力」に頼るな。

1. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体との関係を持たない。
2. 政治、行政と透明度が高い関係を構築する。

抜け駆けするな。

1. 仲間を支えられている自分、仲間を支えている自分を意識する。
2. インサイダー取引をしてはならない。

仲間を裏切るな。

1. 信用・信頼・名誉を損なう行動や発言をしない。
2. 企業秘密・個人情報は適切に管理し、無断で会社外に開示・漏洩しない

チームとしての誇りを。

1. 従業員が働きやすい職場環境を実現する。
2. 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。

そして、才能に愛と賞賛を。
(決して嫉妬ではなく)

※コンプライアンスポリシー全文、コーポレート・ガバナンスはWEBをご覧ください。

move
the
world

